

B型肝炎予防接種について

◆B型肝炎とは

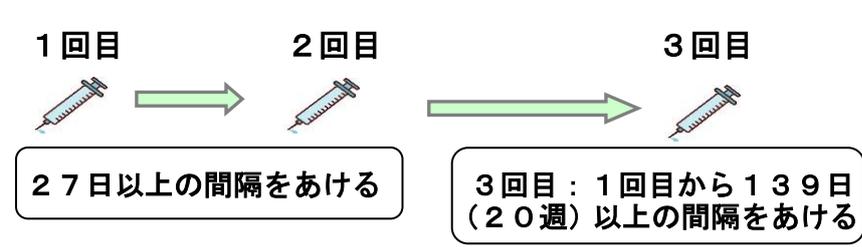
B型肝炎は、B型肝炎ウイルスの感染によって起こる病気です。

感染経路として、ウイルスに感染した家族との濃厚接触やパートナーとの性交渉、ウイルスに汚染された血液の輸血や注射器の使いまわし、ウイルスに感染した母親から生まれたお子さんへの母子感染など主に血液や体液から感染します。

B型肝炎ウイルスへの感染は、一過性の感染で終わる場合と、そのまま感染している状態が続いてしまう場合（この状態をキャリアといいます）があります。キャリアになると慢性肝炎になることがあり、そのうち一部の人では肝硬変や肝がんなど命に関わる病気を引き起こすこともあります。

【接種年齢・接種スケジュール】

対象年齢：1歳未満

標準的な接種期間	接種回数	接種スケジュール
生後2か月から 9か月になる前 まで	3回	 <p>1回目 → 2回目 → 3回目</p> <p>27日以上の間隔をあける</p> <p>3回目：1回目から139日（20週）以上の間隔をあける</p>

※十分な効果を得るためには3回の接種が必要です

※HBs抗原陽性のお母さんから生まれたお子さんの接種は、上記とは異なります。健康保険によりB型肝炎ワクチンを受けますので、主治医にご相談ください。

【肝炎ワクチンについて】

ワクチンを接種することで、体の中にB型肝炎ウイルスへの抵抗力（免疫）ができます。免疫ができることで、一過性の肝炎を予防できるだけでなく、キャリアになることを予防でき、まわりの人への感染も防ぐことができます。

B型肝炎ワクチンは合計3回接種します。はじめの2回で基礎免疫を付け、追加の1回で長期の免疫効果が期待できますが、お子さんの体質や体調により、免疫ができないことがあります。

※ワクチンは2種類あります

使用しているワクチンは医療機関により異なりますので、主治医にご相談ください

※ワクチンにより、乾燥天然ゴム（ラテックス）が含まれているゴム栓を使用しており、天然ゴムの製品に対する即時型の「ラテックス過敏症」があらわれる場合があります。

ラテックス製の手袋使用時にアレルギー反応がみられた場合やラテックスと交叉反応のある食べ物（バナナ、栗、キウイフルーツ、アボカド、メロン等）のアレルギーがある場合は、主治医にご相談ください。

【副反応について】

注射部位の発赤、疼痛、全身倦怠感、発熱などの症状が出る場合があります。極めてまれにアナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎などの重い病気にかかることがあるといわれています。